



乳房炎防除事業 取組事例紹介

今回は、H20年度乳房炎防除事業に取り組んだ中から、成果のみられた事例を紹介します。

★宇都宮支所管内 A 牧場★

実施内容

問題点

① バルクスクリーニングテスト

搾乳衛生の不徹底が見られた。

② 搾乳作業の確認

・使用しているタオルが“細菌学的に”
きれいではなかった。
・搾乳手順が担当者で統一されていなかった。

③ 牛舎環境の確認

・ベッドに使用している戻し堆肥が発酵
不完全。
・分娩後、乳房炎が多発していた。

改善策

上記を踏まえて、下記の改善策を実行しました

① 殺菌済み布タオル 1 頭 1 布 ⇒ (殺菌用洗剤で洗濯)

② 搾乳手順の統一

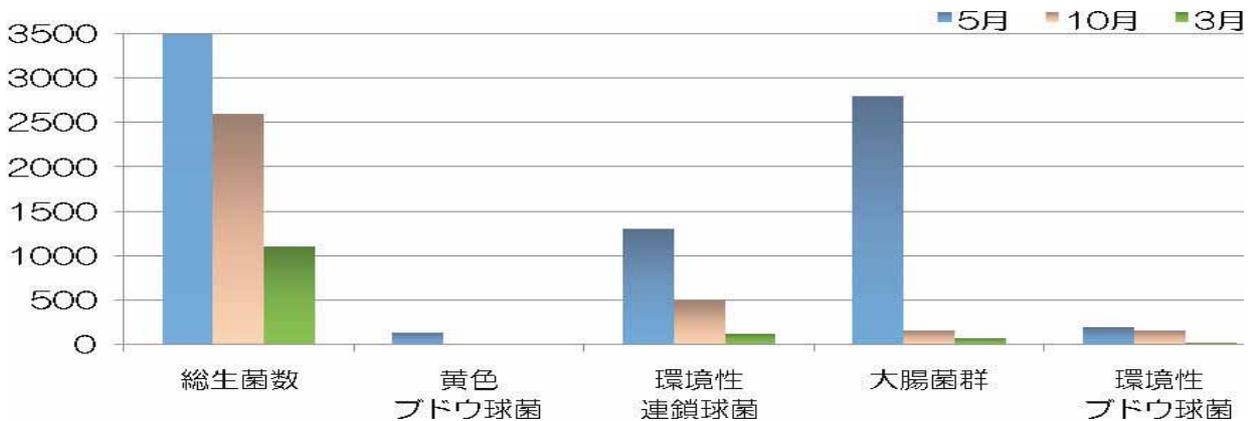
③ ベッドに消石灰を散布

⇒ (殺菌効果を継続させるため、1~2 日おきに実施。分娩後乳房炎
が多発していたため、乾乳牛舎や分娩房にも散布。)



実施後の効果

① バルクスクリーニングテストの推移

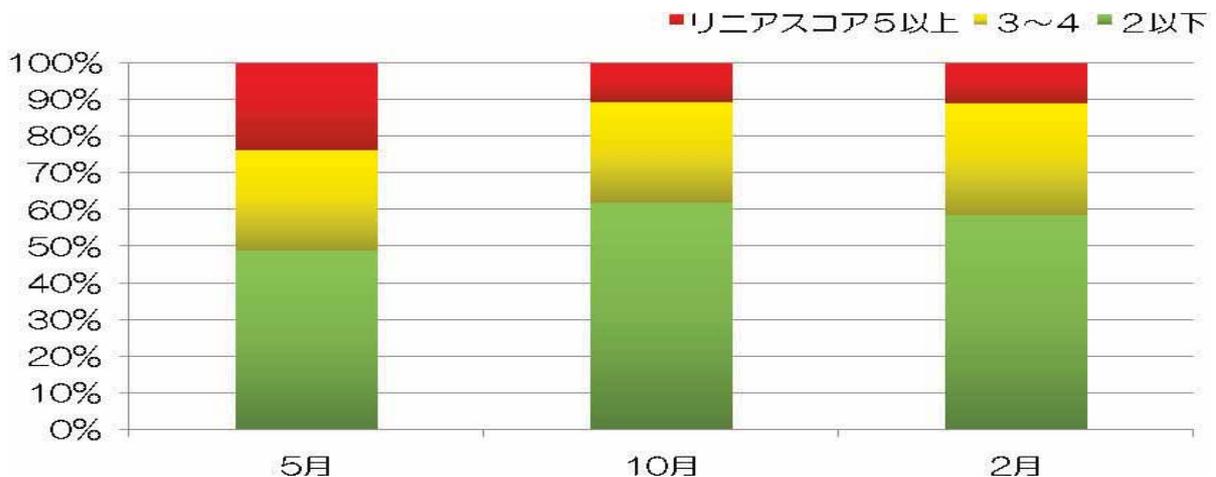


② 体細胞数の推移（検定成績より）

牛群内において、リニアスコア2（体細胞数7万個/ml）以下が1割増え、5以上（28.3万）以上が1割減少しました。

リニアスコアとは体細胞数を統計処理するために対数変換した値。リニアスコアに変換することによって、牛群内の乳房炎感染率を統計的に判断することが可能となります。

《リニアスコア2以下＝健康牛 3～4＝乳房炎要注意牛 5以上＝乳房炎牛》



この牧場は、乳房炎防除事業に取り組んで1ヶ月で効果が表れ、その後も安定して推移しています。H20年度は他の農場においても多くの成果がみられました。

乳房炎が治らない、体細胞数が下がらない等、乳質でお困りの方はバルクスクリーニングテストから実施してみませんか！？

詳しくは、診療課（Tel028-676-1439）または各支所指導課までお問い合わせください。